



「龍翔」第36号の発刊に寄せて

学校長 駒田 勝

令和7年度の教育活動の記録「龍翔」第36号が完成しました。本校の教育活動の歴史をつなぐ本冊子を今年度もお届けできますことは大変な喜びです。毎年の記録の積み重ねは、本校の貴重な足跡です。「温故知新」の言葉が示すとおり、過去の教育活動についてよく調べ、そこから得られた知見を活かした新たな教育活動を創造するための資料となり、本校の進むべき方向の一助となりうるものです。

さて、著しい少子化の影響を受け、本年度入学生(80回生)からは、普通科が1クラス減の5クラスとなり、総合自然科学科と併せ学年6クラス規模となりました。ただ、生徒数は減少したものの、本年度は生徒が躍動し、活気に満ちた1年となりました。特に、部活動においては、例年以上に生徒が活躍し、輝いた1年となりました。手堅くこれまで通り、全国大会と近畿大会の双方に出場を果たした放送部と百人一首部。加えて、自然科学部生物班の國武 明日香さんが、探究活動においてアジア大会出場を決め、11月に英語での研究発表をマレーシアで行いました。また、水泳部の活躍も光りました。特に、上川 馨平さんは1年生ながら、インターハイと国民スポーツ大会、そして夏秋の近畿大会のすべてに出場しました。国スポでは、少年男子B400m自由形で決勝7位と健闘し、秋の近畿大会では並み居る強豪を抑えて400m自由形で優勝を飾りました。さらには、男子ソフトテニス部が6年ぶりの近畿大会団体出場、陸上競技部女子駅伝の11月県予選では、全国に知られた強豪校である須磨学園や西脇工業、園田学園に続く4位と存在感を示し、近畿大会出場権を獲得しました。その他詳細は本誌に譲りますが、「文武両道」の体現を通して「知・徳・体」の調和の取れた人材育成を目指す本校にとっては、例年以上にうれしい1年となりました。

また、本年度を語るうえで、避けて通れないのが今夏の暑さです。昨年度同様、夏の暑さは極めて厳しく、長く続きました。昨年度は、「猛暑」「酷暑」という言葉をよく耳にしましたが、今夏はあまり聞き慣れない「命に関わる危険な暑さ」という言葉を頻繁に耳にしました。実際、日本気象協会の発表によると、今夏(6月～8月)の日本の平均気温は、平年に比べ2.36度も高く、1898年(明治31年)の統計開始以来、最も暑い夏だったそうです。また、兵庫県における「熱中症警戒アラート」の発令日数は、和歌山県と長崎県の65日に次ぐ、58日と異常な夏となりました。このような記録的な「猛暑」「酷暑」の中、授業中や部活動、登下校中の「熱中症」が心配されましたが、本校では大きな事故なく無事にこの夏を終えることができたことを喜ぶと同時に、ご指導いただいた教職員の皆さんに対して、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後になりますが、本誌の発刊にあたり、ご尽力いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。巻頭のご挨拶とさせていただきます。